

8/30 お茶産業の新しい可能性を体験

茶産業と伝統工芸(和染)を体感できるワークショップが開催

茶の製造過程で廃棄される茶葉を活用したお茶染めの文化を知ってほしいと「お茶染めワークショップ」がカフェグランマで開催されました。

お茶染め washizu 代表の鷲巢恭一郎さんを講師に迎え、参加者は染色技術と資源の循環に理解を深めながら、楽しそうに作業を進めていました。

静岡文化芸術大学の松尾哲太さんは「お茶染めは想像していたよりも大変な作業でしたが、とても貴重な体験ができました」と笑顔で話しました。



「どんな色になるんだろう?」と染めた後シャツを乾かす

ユネスコエコパークの魅力を知ろう 9/8

南アルプスユネスコエコパークへの理解を深める出前授業



学校をクイズ形式で紹介。笑い声が絶えない時間に

静岡県環境創造課が主催した「南アルプスユネスコエコパーク出前授業」がビデオ会議システム(zoom)で行われ、本川根中学校と静岡市立井川中学校が参加しました。

生徒たちは、エコパークの概要を学びながら、画面を通して、互いの地域の風土や産業などについて共通点や違いを話し合いました。

両中学校の交流は今後も計画されており、次回の11月は本川根中学校の生徒が井川地区を訪問。歴史や文化などに理解を深める授業が予定されています。

情報伝達の格差是正のために

8/30

住民生活の向上のために光伝送路整備工事が着工



玉串を奉納する鈴木敏夫町長

今年9月から着工予定の光伝送路整備工事の安全祈願祭が梅高区のワイコムテック株式会社の現場事務所で執り行われ、鈴木町長をはじめ関係者が、工事の無事を祈り玉串を奉納しました。

この工事は、まだ光ケーブルが敷設されていない町内の一部地域の情報格差を解消し、超高速で大容量の情報通信を提供するために行われます。

町内の高速通信網を管理するCBBS株式会社の泰野仁志代表取締役は「安定した情報通信体制を確保し、住民の皆さんの生活の向上に少しでも貢献していければ」と期待を込めて話しました。

エコティ日記

「町の自然資源を活かした地域観光事業に取り組んでいる(一社)エコティかわね。今回は理事の柳原さんに活動や想いを聞きました。」

自然と共に、自分らしく暮らせる町

1986年のチェルノブイリ原発事故以降、今後の生き方・あり方を考えた時に、なるべく自給的な暮らしをすることが念頭にありました。そして縁あって川根本町に住み、30年以上の月日が経ちました。

最初に住んだ桑野山では水害から始まり、自然は人の手に負えないと思い知らされました。現在住んでいる平栗地区では沢水を引き、土地を開拓して自分たちで家を建て、羊を飼い、そこから得られるもので糸紡ぎや草木染、クラフトを仕事としています。昨年からは棚田にも挑戦。川根では自然や人の恩恵を受け、森羅万象ありがたい生活をさせてもらっています。ここでの暮らし、衣食住を人に伝えることが私たちにできることかと思えます。

エコティかわねでは、川根の暮らし・自然を愛する人が自分の好きなこと・楽しめることをプログラムにして、町内外の人に本物の体験をしていただいています。地元の人や移住者も、若者も年配の方も、それぞれができることで融合し、自然と共存し、自分らしく生きられる町づくりをしていきたいです。「ここで暮らして良かった」と言えるような町に。



(上)羊毛フェルトワークショップの様子
(下)エコティで開催している藍染め体験



柳原 由実子 さん

平成3年に川根本町へ移住。(一社)エコティかわね理事。自給自足の暮らしや、身土不二(しんどふじ)を基本とするマクロビオティックに取り組む。

(一社)エコティかわね
川根本町桑野山424-6
☎(58)7000



ecotkawane@gmail.com

9/8 地域経済の担い手育成へ連携

島田掛川信用金庫と連携協定を締結

町は、若者の定住や地元企業への就職を促進する「川根本町ネクストリーダーズプロジェクト」の始動を前に、島田掛川信用金庫と連携協定を結びました。(プロジェクトの詳細は6ページ掲載)

同金庫は、本プロジェクトにおいて、プロジェクトに参加する高校生や大学生などを対象に低金利で教育ローンを提供するほか、地元企業の情報発信を支援する役割を担います。

鈴木町長は「若者の定住や地元就職が進み、企業内だけでなく、地域全体の次世代のリーダーとなる人材が育っていくことを期待する」と話しました。



連携協定を結んだ鈴木町長と島田掛川信用金庫の伊藤勝英理事長(右)